

RECELL®と自家網状植皮併用による混合深度熱傷治療から7日目に良好な整容的アウトカムを伴う完治 が得られた

CASE STUDY / Jeffrey Carter, MD/ University Medical Center, New Orleans, LA

患者の状態

熱湯/蒸気による30%TBSAの混合深 度熱傷を受傷した46歳男性。本症例で は、右下腿の全層熱傷創に対する2:1分 層植皮(STSG)とSpray-On Skin™Cellsを 併用したRECELL治療に注目する。

RECELL治療部位



結語

本症例では、全層熱傷の自家植皮片 の上からRECELLを使用することによ り、1週間で完全上皮化が達成され 、瘢痕評価も良好な結果が得られ たことが示された。

整容的アウトカムは改善し、患者から 疼痛が殆ど無かったという報告があっ た。





(A) 自家植皮後

(B)術後1週

(C)術後2週







(D) 術後8週

(E) 術後12週

治療法

この患者の治療は前向き観察研究の一環として実施された。熱傷創のデブリードマン実施後、 脚部に2:1網状STSGの移植が行われた(図A)。RECELLシステムでSpray-On Skin™Cellsを作成し 、移植した網状植皮の上から適用した。治療部位の被覆にはTelfa™Clear、その上から Xeroform™及び厚みのあるドレッシング材を使用した。

臨床的アウトカム

RECELLを使用した治療から7日目、創部の完全再上皮化が得られた(図B)。1週目から4週目の間 、患者は疼痛の評価を2とした(1=疼痛なし、10=非常に痛い)。その後の8週間で整容性につい ては更なる改善が見られ、全体を通しての観察者と患者の評価(POSAS)は2、つまり殆ど通常の 皮膚と同じという評価であった(図E)。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

製造販売元



製造元

